教員推薦図書　２０２４年１２月

推薦教員	国際学部　学部長 芳賀　克彦 先生	【推薦コメント】 21 世紀の世界経済の中心はアジア地域であると言われている。この地域では第二次世界大戦後から東西冷戦が終結する 1980 年代末までは貧困問題を抱える国々が多かったが、1978 年の中国の鄧小平による改革・解放政策への政策転換や 1985 年のプラザ合意を背景とした日本からアセアン諸国に対する急激な直接投資の増加などを背景として、1990 年代には同地域の経済が急速に成長した。1997 年にはアジア通貨危機に直面し一時的に経済成長が停滞するが、２１世紀に入ってからは、多様な言語、文化、政治体制、生態系などの違いにもかかわらず、そこで暮らす人々や企業が国境を乗り越えてダイナミックな経済活動を展開している。特にアセアン諸国、日本、韓国、台湾、中国の間では、国境を超える国際的な生産分業体制であるグローバル・バリュー・チェーンがますます拡大傾向にある。 本書は 1960 年代から日本が韓国、台湾、香港、シンガポールといった新興工業経済地域(NIES)に展開した「雁行形態」型発展パターンが 20 世紀のアジア経済の発展に如何に影響を与えたか、戦後の自由貿易体制とその後の経済統合の流れの中でアジア地域の特徴は何か、このような 21 世紀のアジア経済のダイナミズムの中で日本はどのように生き抜くことが出来るかということを論じている。 日本とアジア諸国との経済の相互依存関係を学ぶ上で非常に参考になる一冊です。
書名	アジア経済とは何か ～躍進のダイナミズムと 日本の活路～ （中公新書 2571）	
著者名	後藤健太	
出版社	中央公論新社	
請求記号	332.28/Got	
資料 ID	901125156	